

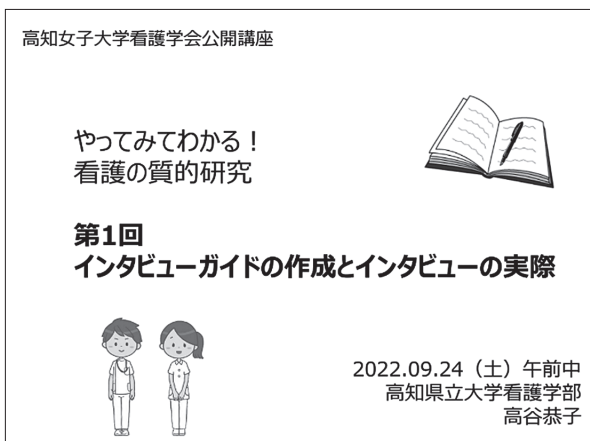
令和4年度高知女子大学看護学会公開講座報告

「やってみてわかる！看護の質的研究」

「やってみてわかる！看護の量的研究」

令和4年度の公開講座は、高知県立大学との共催により、第1回と第2回「やってみてわかる！看護の質的研究」を令和4年9月24日（土）に、第3回と第4回「やってみてわかる！看護の量的研究」を令和4年10月1日（土）に実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度に引き続きオンラインでの開催となりましたが、県内外から看護師や助産師、看護教員、大学院学生など、のべ104名にご参加いただきました。

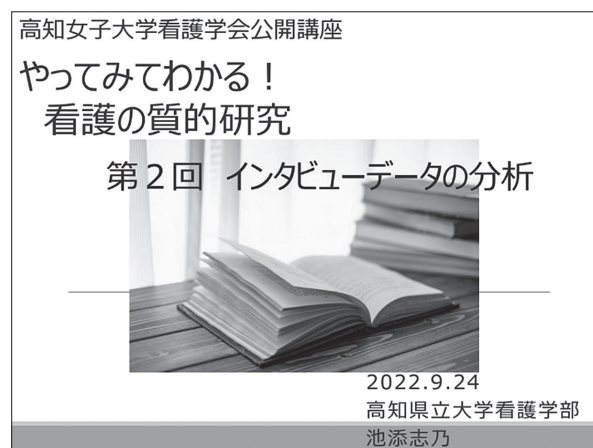
第1回は、質的研究の「インタビューガイドの作成とインタビューの実際」をテーマに、高谷恭子先生（高知県立大学 准教授）を講師に迎



えて開催し、28名の参加がありました。質的研究方法の特徴について整理した後、研究のプロセスに沿って、研究テーマの決定、研究の枠組みの作成、研究計画書の作成、面接によるデータ収集などの方法について、具体例を示しながらポイントをご説明いただきました。面接によるデータ収集については、面接の種類、インタビューガイド、インタビューの進め方などの講義の後、実際にインタビューガイドの作成とそれを用いたインタビューに挑戦し、グループで

の振り返りを行って理解を深めました。実施後のアンケートでは、「グループワークを通じて実際に考えることで、自分の研究でのインタビューガイドを作る時に大切なポイントに気がつくことができた」「取り組んでいることの再確認ができ、振り返る機会となった」などの感想がありました。

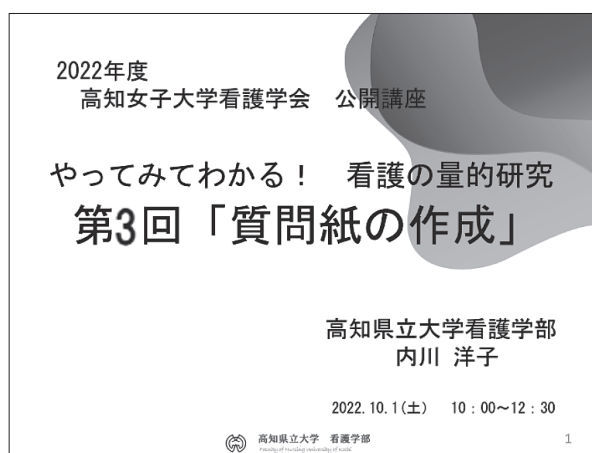
第2回は、質的研究の「インタビューデータの分析」をテーマに、池添志乃先生（高知県立大学 教授）を講師に迎えて開催し、28名の参加



がありました。データと繰り返し対話しながら、現象に対する新たな見方を創造するという質的研究におけるデータ分析の特徴を踏まえて、具体的な分析方法や現象の表現方法について解説していただきました。その後は、実際のインタビューデータを用いて、グループでデータのコード化とサブカテゴリー化にチャレンジしました。試行錯誤の分析でしたが、最後には講師が描いたストーリーラインが紹介され、現象をいかにして的確に捉え表現するかを実践的に学ぶことができました。参加者からは、「言葉を1つ1つ丁寧に解釈することがこんなに楽しいとは思わなかった」「難易度は高かったが、先生の講義が

素晴らしく、質的研究に取り組みたいと思うようになった」「自分の研究に生かすことができると思う」といった感想がありました。また、グループワークは時間が短く大変だったという意見もありましたが、様々な意見に触れ、解釈の違いから思考が広がっていくことを実感したとの感想もあり、有意義な学び合いの機会となりました。

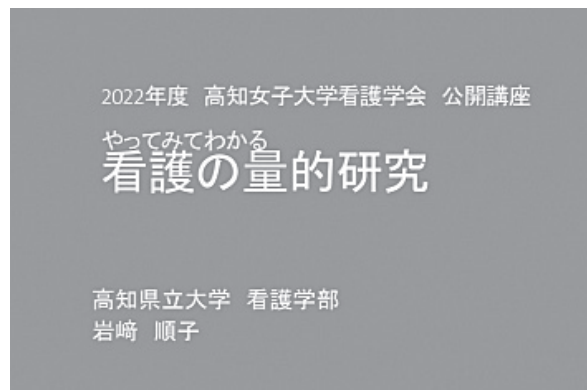
第3回は、量的研究の「質問紙の作成」をテーマに、内川洋子先生（高知県立大学 准教授）を講師に迎えて開催し、21名の参加がありました。



様々なワークやWebミーティングの機能を活用した共有などにより、全員参加型のアクティブな講座となりました。講義では、研究の問いのレベルに合わせた研究デザインの選択、質問紙の作成方法とその選択、質問紙を作成する際の留意点、質問紙作成の実際などについて、具体例を交えながらご説明いただきました。質問紙作成の実際では、質問の順番、データ分析を考慮した設問設定、間隔尺度の程度表現など、注意すべきポイントの解説とともに、活用できる参考文献の紹介もあり、イメージ化しながら学ぶことができました。参加者からは、「分かりやすい解説が多く、日ごろ抱いていた量的研究に対する苦手意識が軽減された」「今後研究に取り組む予定があるため、量的研究の尺度が参考になった」「臨床のレベルでやる量的研究の講義もききたい」といった感想や要望がありました。

第4回は、量的研究の「研究デザインからデータ分析・結果の記述・考察の視点まで」をテ

マに、岩崎順子先生（高知県立大学 講師）を講師に迎えて開催し、27名の参加がありました。



質的研究と量的研究の違いから始まり、研究目的と期待される結果の対応、量的研究の方法、結果の解釈と考察などについて、具体的にご説明いただきました。特に研究方法については、研究目的に沿っていかにして分析方法を選ぶかを、分析例を示しながら丁寧に解説され、研究目的—分析方法—結果の連続性を考える重要性が伝えられました。また、講義の途中では、量的研究のデザインを考えるワークも交え、量的研究計画の立案について学びを深めました。参加者からは、「現在、量的研究に取り組んでおり、今までのことを振り返るきっかけになると共に、今後の取り組みへの具体をイメージできた」「量的研究は慣れていないため難しいが、基礎的なことは理解できた」「データ分析ではなく、研究の目的と結果をいかに考察していくかが大切なのだということがよくわかった」などの感想がありました。

令和4年度の公開講座は、昨年度に引き続きオンラインでの開催となりましたが、多くの皆様にご参加いただきました。毎回、遠方の方のご参加があり、オンラインならではのメリットを実感しています。また、オンラインミーティングが広く普及してきた影響もあり、トラブルもほとんどなく、対面同様の学びができたという肯定的な意見が聞かれます。一方で、グループワークなどは対面の方が効果的であるとの意見もあり、今後、より良い学びの機会を提供できる方法をさらに検討していく予定です。

実施後のアンケート評価では、回答してくだ

さった方の約98 %の方から「満足～とても満足」と高い評価をいただくことができました。また、感想からは、研究を進めていく上で曖昧になっていたことへの対応策を学ぶ機会となっていることや、研究に対する興味やモチベーションにつながっていることがうかがえます。研究方法をテーマにした公開講座を始めて10年近くが経過しましたが、研究方法を具体的に学びたいと

いうニーズは未だに高いといえます。今後は、ご参加の皆様からのアンケート結果などを参考にしながら、研究に取り組む方だけでなく、臨床等で研究指導にあたっている方のニーズにも応えるような内容の公開講座を企画していきたいと考えています。

ご参加の皆様、講師の皆様、ご参加とご協力をいただき、ありがとうございました。